

責任者	人間福祉研究科委員長	作成部局	人間福祉研究科
-----	------------	------	---------

2021年度に向けた教育研究目標

**【A票:教育研究目標1】**

(タイトル)  
 「人間福祉」研究に関わる諸分野で修得した理論・思想・歴史等の知識や価値、並びに学問的手法及び実践的手法を用いて行った研究内容・成果を広く社会に発信し、その専門性を通じて社会に貢献し得る人材を育成する。

(狙い内容)  
 「人間福祉」という学際的領域において、学修した専門的知識と研究内容・成果を社会に還元することで人類の福祉の向上に貢献し得る人材を輩出するとともに、将来博士課程後期課程に進学し、「人間福祉」の学問領域の深化とそれに関わる教育・研究者として社会で活躍する人材を養成する。  
 日本社会・国際社会において、「人間福祉」という学問領域を浸透・発展させ、「福祉」の向上に寄与する。

**1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)**

自らの研究テーマを修士論文として完成させ、学会・社会でそれに関わる成果を公表できる専門的知識と能力を身に付けた人材を育てる。また、それらの知識・能力を昇華させ、博士課程後期課程への進学も見据えた人材を育成する。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価				変更有無
評価指標	学会・研究会等での発表、もしくは学内外の研究雑誌等への論文等の投稿のいずれかを当該年度に1回または1回以上した学生の割合 それらを1回以上した者の人数/当該年度在籍者数×100% <変更時記入欄>	評価尺度	A : 60% B : 50% C : 研究科として現状把握 D : 各教員が個々に把握している <変更時記入欄> A : B : C : D :	有(無)

3. 年度毎の目標値								変更有無
	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	
2015年度 (計画策定時)	D	C	C	B	B	B	A	
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	<実績> D	見込み	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> C					有(無)
見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	<実績> 調査なし。	見込み	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> 調査票を作成し、現 状把握した結果、 41.4%					

**【2016年度の進捗状況について】** ←

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → はい・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・状況を把握し取組みの起点とする上でも、着実に調査を実施し改善課題等を抽出することが望まれます。(C)
- ・人間福祉に係る人材育成の取組の進展が期待されます。(E)
- ・概ね予定通り進捗している。(G)
- ・達成度評価の評価尺度について、Aが60%というのは適切かどうか検討する必要があると思われます。(I)

**【A票:教育研究目標2】**

(タイトル)

「人間福祉」という従来の学問区分を超えた新しい学問領域を深化させ、この領域で日本・世界を牽引する教育・研究者を輩出する。

(狙い内容)

「人間福祉」は対象となる事象を広く人間と環境とすることから、学際的であり多様な展開が可能な分野ではあるが、学問領域としては発展段階であり、社会での認知度も十分であるとは言いがたい。本研究科で、先行研究を十分に踏まえつつも独創的かつ高度な研究成果をあげる優れた研究者を輩出することにより、「人間福祉」を定義し、学問分野として成長・発展させる。これにより、社会に「人間福祉」の概念の成熟を促すとともに、社会全体の福祉の向上に寄与する。

**1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)**

人間福祉研究科博士課程後期課程に入学し、修了または単位取得満期退学した者への博士学位記授与

**<変更時記入欄>**

人間福祉研究科博士課程前期課程に入学し、人間福祉研究科博士課程後期課程を修了または単位取得満期退学した者への博士学位記授与

**<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>**

人間福祉研究科での研究成果について、博士課程の前期課程と後期課程を一貫して捉えるため。

**2. 達成度評価**

評価指標	人間福祉研究科博士課程後期課程に入学し、修了または単位取得満期退学した者に対する学位授与数	評価尺度	A : 2008年度からの累積で5名 B : C : D : 2008年度からの累積で3名	変更有無
	<変更時記入欄> 人間福祉研究科博士課程前期課程に入学し、人間福祉研究科博士課程後期課程を修了または単位取得満期退学した者に対する博士学位授与数		<変更時記入欄> A : 2008年度からの累積で6名 B : 2008年度からの累積で5名 C : 2008年度からの累積で4名 D :	

**3. 年度毎の目標値**

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度(計画策定時)		D	D	D	D	D	D	A	有(無)
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度: A~D	<実績> D	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> D						
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績> 累積3名。	見込み <2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> 累積3名。						

**【2016年度の進捗状況について】**

博士学位授与予定ない。

**<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>**

前期課程後期課程の一貫した研究成果と考え、当初は5年後に成果が表れる形で目標値及び評価尺度を設定したが、2015年度から2021年度の間にも博士学位授与数の実績もありうることから、評価尺度を変更する。

**2016年度の取組み状況の確認**

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? →  はい ・  いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

**<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示**

- ・ 人間福祉研究科博士課程後期課程に入学し、修了または単位取得満期退学した者への博士学位記授与という目標をめぐって、その進捗状況の確認も含め、具体的に記述されて、適切であると思われます。(A)
- ・ 取組みの評価指標である学位授与数については特に進捗が見られませんが、研究科のマネジメント体制まで視野に入れて取組んでいる点は特長として注目されます。今後も積極的な取組みが期待されます。(C)
- ・ 後期課程修了により、社会福祉の向上に寄与することが期待されます。(E)
- ・ 変更されている指標は、1名刻みで評定段階が異なるが、対象者数が少数なのでそもそも5段階評価が良いか検討することが必要かもしれない。(G)